

牛久：学校周辺に見る自然

第39号 ひたち野うしく小

2020年8月2日発行

< 生きもの発見！ ～ビオトープ>

こんにちは。ひたち野うしく小2年生との「生きもの発見」、今回はビオトープで見つけた生きものたちを紹介します。



ハギの葉を食べるアオドウガネ(上2枚)と、アジサイの葉を食べる2頭のアオドウガネ(下)。

まずは、カブトムシなどと同じ甲虫のなかま。ハギの葉に、アオドウガネがいました。みどり色にかがやくきれいな昆虫ですが、じつは食欲旺盛で、うんちをしながら葉をむしゃむしゃ食べてしまう害虫です。つかまえようとすると下にぼとりと落ちて逃げますが、つかまるとよくうんちを出します。うんちの色はみどり色で、葉を食べているのだからということがわかります。穴だらけの葉の裏や、その近くの枝などを探すと見つかりますよ。アジサイの葉や、草の葉を食べているものもいましたね。

ハギの葉には、テントウムシもいました。テントウムシというと、ナナホシテントウやナミテントウがよく知られていますが、こちらはヒメカメノコテントウ。やはりアブラムシを食べる益虫です。ナミテントウにもいろいろなものが見られますが、このヒメカメノコテントウも同様に、星のないものやまっ黒けのものもいるそうです。写真のものは4つ星なので、「4紋型」とよばれます。ナナホシテントウを見つけたお友だちもいましたね。



ハギの葉につくアブラムシを食べていた、ヒメカメノコテントウの4紋型(下)。



ほそ は た 食べる イナゴ 幼虫 (左, 中) と 広い葉を食える オンブバッタ 幼虫 (右上)。クビキリギス (右下) は何を食える？

ビオトープにもイナゴの幼虫がいました。幼虫ですから羽は小さく、まだのびていませんでしたね。イナゴは、イネのような細長い葉を食べます。そしてビオトープには、バッタのなかまがさらにいろいろいました。よく探すと、オンブバッタの幼虫もいました。オンブバッタはイナゴと違い、草の広い葉をよく食べています。触角のとても長い幼虫もいました。頭先の先がとがっています。よく見ると、クビキリギスの幼虫でした。クビキリギスは雑食ですが草をよく食べ、ほかの虫をつかまえて食べることはあまりないようです。



ビオトープの池に生える草にはたくさんのイナゴがいましたが、それらをねらってか、めだたないようにかくれてカマキリの幼虫がいました。冬の観察の時に近くにオオカマキリの卵のうがあったので、たぶんオオカマキリの幼虫かと思います。イナゴなどと違って肉食のハンターですから、草ではなくほかの虫などをつかまえて食べます。その名の通り、前足がカマのようになって、えものをつかまえやすく、逃がしにくいようになっていますね。

えものをねらう、カマキリの幼虫。



ハギに来てみつを吸ってまわったり(左)、腹をまげてたまごを産みつける(右) ツバメシジミ。

ビオトープのハギの花には、ツバメシジミが来ていました。後ろ羽のうしろにちょこんと突起のある、シジミチョウのなかまです。花のみつも吸いますが、幼虫が葉を食べるので、腹をまげてたまごを産んでいることもあります。



ツツジの葉にいたルリチュウレンジバチ(左)と、オニタビラコのみつを吸う小さなハナバチ(右)。

ツツジの葉には、紺に近いり色にかがやくハチがいました。ルリチュウレンジバチです。じつは幼虫が、ツツジの葉を食べるのです。そして、春から秋まで咲くオニタビラコの花には、小さなハナバチがみつを吸いに来ていました。



小さなハナバチをつかまえたジョロウグモ(左)と、えものを探すカナヘビ(右)。

そして、チョウやハチ、バッタなどがいれば、カマキリの他にもそれらを食べて生きる動物がかくれています。みつを吸ってきたのか、小さなハナバチがジョロウグモに食べられていました。そして、カナヘビが背の高い草の葉から葉へとうつりながら、えものを探していました。【理科支援員：宮内】